

研究主題

自ら考え、表現し、学び合う児童の育成 ～授業の構造化と家庭学習の充実を通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

やまなしスタンダードに示された視点と各教科の特性を考慮して、効果的に授業を構造化し、実践するとともに、学習形態を工夫し、授業を活性化することで、自ら考え、表現し、学び合う児童の育成を図る。

2 研究の内容・方法

(1) 児童の実態分析と指導法の改善

・CRT(3.5年)の結果分析から、本校児童の実態把握をし、授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

(2) 授業研究

・授業研究による検証。

(3) 一人一実践の公開授業

・一人一実践を公開し、授業改善と授業力の向上を図る。

(4) 今日の教育課題関連の学習会

・講師を招聘し、学習会を行い、共通認識をもつ。

(5) 学級力向上プロジェクト

・学級力アンケート、学級力レーダーチャートを利用し、スマイルタイム、スマイル・アクションなどの手法を通して、学級力を高める。

(6) 学びの基礎となる学習環境づくり・朝の活動の取組

・発達段階に応じたノート指導を系統立てる。

・授業とリンクした家庭学習となるよう、「家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八ヶ条～」をもとにした家庭学習の定着・充実を図る。

(7) 教育課程説明会の環流報告

3 実践内容

(1) 学習会

「子どもたちを守るために～私たちにできること～」

スクールカウンセラー 光城綾子先生

(2) 研究授業

第2学年 国語科 「馬のおもちゃの作り方」

授業者 雨宮 玲子先生

指導助言 峡東教育事務所 早川 賢一 指導主事

第4学年1組 算数科 「計算のやくそくを調べよう」

授業者 廣瀬 桃花先生

指導助言 山梨県総合教育センター 笠井さゆり 副主幹・指導主事

(3)一人一実践

第1学年	国語科「ともだちのこと、しらせよう」	安富智恵美教諭
第3学年1組	算数科「小数」	小野 晃裕教諭
第3学年2組	国語科「すがたをかえる大豆」	新谷 雅美教諭
第4学年2組	算数科「倍の見方」	山宮 由紀教諭
第5学年	算数科「単位量あたりの大きさ」	若月敬二郎教諭
第6学年	算数科「全体を決めて」	岩下亜希子教諭
たんぽぽ学級	算数科「倍の見方」	篠塚 由菜教諭
さくら学級	算数科「新しい計算を考えよう」	廣瀬 明子教諭
ひまわり学級	算数科「かけ算の筆算を考えよう」	渡邊 光章教諭
教務主任	理 科「物のとけ方」	山田 勝博教諭

II 成果と課題

1 成果

- 研究を積み重ねてきたことで、授業の構造化、家庭学習が定着してきている。後小のスタンダードが「どのクラスでも、どの先生もやっている授業スタイル」となり進められた。
- 講師を招いて2回の授業研究会を行って授業展開や発問など授業改善に結びつく学習ができたこと、後小ノートの取組も定着してきていることなど、効率よく研究を進めて成果を得ることができた。
- 児童の実態把握として、今年度は、3.5年生に CRT を行ったため、結果の分析から課題点が明らかになり、授業改善の方法など早い段階で共通理解できた。全国学力学習状況調査も自校で採点して分析できた。
- 一人一実践の参観は、発問や授業の流れなど様々なことを学ぶことができたり、他学年他学級の学習環境も見ることができたりし、参考になった。
- 学級力向上プロジェクトでは、各学級の取組を共有したことで、どのような活動ができるのか、今後の取組の参考になった。
- コロナ禍のなかで、どのような研究ができるか年度当初は心配したが、「学び合い」の方法を工夫したり、家庭学習の強化月間を強化週間にしたりするなどして研究できた。
- 普段なかなか先生方と教材や授業づくりについて話をする機会がないので、先生方が講師となり行った学習会(ミニ学習会)はとても勉強になった。

2 課題

- 2つのブロックに分かれ研究を進めたが、それぞれのブロックの研究内容を早い段階で交流し、同一歩調で研究できるとよかった。
- 研究内容が盛りだくさんであったようにも思う。もう少し精査していったほうがよい。
- 学習会を2回行う予定だったが、年度当初見通しが立たない部分もあり、1回しか開けなかった。今日の教育課題である学習会は、やはり行いたい。

(研究主任 山宮 由紀)